農あるくらし

酒米生産の伝統を守りたい

【高屋町】保田 礼生 さん

高屋町造賀の保田礼生さん（50）は、地元特産の酒造好適米の生産に力を入れています。栽培が難しいとされる酒米ですが、先輩農家やJA営農指導員の助言をもらいながら丁寧な管理を心掛けることで高品質・収量増を目指します。

保田さんの父・哲雄さんは地元生産者とともに1989年、現在の東広島市酒米栽培推進協議会の前身である「造賀酒米研究会」を立ち上げ、酒造会社と連携しながら造賀の酒米生産に尽力していました。父が亡くなり、礼生さんは25歳で農業を継ぎました。手伝いはしてきたものの、分からないことばかりでしたが、母や周囲の人の力を借りながら兼業で酒米と主食用米の栽培を始めました。

5年前から専業となり、酒米の「山田錦」1.2haと主食用米の「コシヒカリ」50aを栽培しています。JAの水稲講習会や、同協議会の栽培講習会に積極的に参加し、情報収集して技術の向上に励んでいます。収量や品質を上げる努力を惜しまず、昨年の夏は猛暑の中、田んぼに入って雑草のヒエを手で抜きました。

機械修理の仕事の経験を活かし、米袋を持ち上げて運ぶ「玄米キャッチャー」や苗箱を滑らせて運ぶコンベアなどを自作。省力化を図るとともに、安全に作業できる工夫をしています。

父の想いを受け継ぎ、無我夢中で取り組んできた農業ですが、専業になって全てを自分で担うようになり、育てる楽しみを深く感じるようになったといいます。これからの目標は規模拡大。保田さんは「酒米の産地を守るために農業を続け、造賀の地域活性化にもつなげたい」と展望します。

▲自作の玄米キャッチャーで米袋を運ぶ保田さん

地域の情報をお届け！

広島中央トピックス

米の販売で大和町を元気に 大和小学校5年生

三原市立大和小学校5年生27人は、米作りの学習を通して地域農業を活性化する「大和町を元気にしようプロジェクト」に取り組んでいます。

児童それぞれが「みんなの笑顔はお米から」をテーマに描いた絵をパッケージラベルにした米袋を制作。大和町産の「あきさかり」2kg入り135袋を西条町の産直市「とれたて元気市となりの農家店」で販売しました。

初日の1月29日には児童が同店で米をPR販売しました。中通錬くんは「声をかけたお客さんが買ってくれるのはうれしい。大和町をもっと元気にしたい」と話しました。

▲自分たちでラベルを描いた大和町産米を販売する児童

女性対象 初めての米作り講座開設

広島中央地域は1月19日、女性の水稲栽培初心者を対象にした「初めての米作り講座」を開講しました。今年は、募集人数20人を超える募集があり、32人が受講。学びやすい環境を整えることで、米作りに携わりたいと考える女性や、農業に関心がある女性の農業への参加を後押しします。

講座は1～12月まで月1回開き、作業時期に合わせた内容を営農指導員が講義します。

JA高屋支店で開いた初回の講座では、米作りの用語を解説。面積の単位や「分げつ」「出穂」などを丁寧に説明しました。

▲用語を説明する佐々木正文指導員

なるほど え～のう！ 営農情報

水稲

紋枯れ病について

「紋枯れ病」は例年発生が少ない傾向にありましたが、令和7年産水稲は、多くの地域で発生が見られました。発生すると土中等で菌が越冬し、次年度の発生が多くなります。

紋枯れ病は、イネに発生することで知られ、感染することでイネが枯死し、収量の低下につながる厄介な病気です。

温暖化の進行とともに発生件数の増加も懸念されており、今まで以上にしっかりとした防除が大切です。

◆主な原因と症状について

病斑は茎に現れますが、葉や穂にも病斑がでることがあります。病斑は、暗緑色の水浸状で、内部は褐色から灰色の様相となります。病気が広がると、葉や茎が柔らかくなり、雨風で倒伏しやすくなってしまいます。

また、罹患(りかん…病気にかかる)した株は枯れてしまうので、収穫量の低下や米の品質低下を招き、経済的にも大きなダメージとなってしまいます。

梅雨時期の気温が高い条件が続いたり、多肥栽培や過繁茂したりしている水田では紋枯れ病が発生しやすく、早生品種や「あきさかり」等の多分げつ品種で被害が大きくなりやすいといわれています。

◆原因は糸状菌の一種

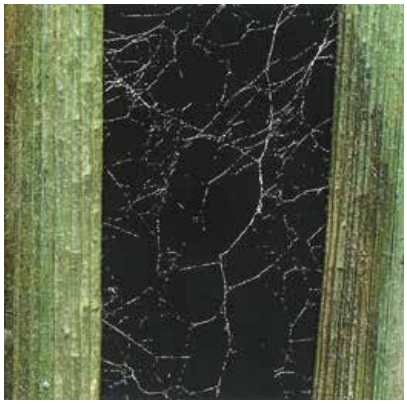
病原因菌は糸状菌の一種で、水田のあぜ道などに茂った雑草や前年の被害株に残った菌核が越冬し、再感染します。代かき等土をかき混ぜた際に水面へ浮かび、イネの株に付着します。気温が22℃を超え、株間の湿度が高くなると菌から菌糸が伸び、茎に侵入し発病します。

◆発生初期の症状

まず水面に面した茎に発病し、発生初期は暗緑色で水浸状の小さな斑点状の病斑です。進行するにつれて病斑の色が茶褐色や灰色に変わったり、上部に大きな病斑が現れたりするようになります。

初期段階では目視で確認しづらいので注意が必要です。病気が進行すると、病斑上に2～3㎜ほどのドーム状で褐色の菌核ができます。また茎には白い菌糸がクモの巣のように見えます。菌核はやがて土壌に落下し、土壌の中で越冬します。

▲典型な病斑


▲葉鞘に張られた菌糸

◆「紋枯病」と「いもち病」の違いは？

イネに多い病気である「紋枯病」と「いもち病」。どちらも同じような病斑が現れ、イネが枯死してしまうという点で非常に似ており、なかなか見分けがつかないという人も多いのではないでしょうか。病気の特徴をよく確認し、適切な防除ができるようにしましょう。

◆紋枯病の予防と防除

●予防

紋枯病に対して効果がある箱処理剤の施用及び本田予防農薬の施用

スクラム箱粒剤、モンガリット粒剤(本田防除)等

●防除

紋枯病に対して効果がある本田防除農薬の施用

ノンブラストレバリダ粉剤DL、ノンブラストレバリダフロアブル等

※紋枯病に対し抵抗性が高い品種の選定も選択肢の一つです。

野菜

春馬鈴しょの栽培管理について

馬鈴しょはナス科の植物で、南米アンデスが原産国とされています。

主成分はでんぷんが主体の炭水化物ですが、カロリーは他のいも類と比べて少なく「大地のリンゴ」と呼ばれるほどビタミンCやビタミンB_1、B_6等が豊富に含まれています。また、カリウムを多く含み、食物繊維も豊富な野菜です。

◆特徴

ナス・ピーマン・トマト等のナス科野菜と連作すると疫病や青枯病などの病気が増えます。ナス科作物は2～3年空けて輪作をしましょう。比較的冷涼な気候を好み、15～20℃の気温が最も適しています。

一方で霜には非常に弱く、3月の早い時期に植え付けて萌芽して晩霜に遭うと地上部全体が枯死する場合があるため、植え付け時期にも十分注意が必要です。ホームセンターなどでは早くから種イモが販売されていますが、植え付け時期は十分に見極めましょう。

◆圃場準備

馬鈴しょは弱酸性土壌を好む野菜であるため、前作に酸度を矯正する効果のある石灰質資材(苦土石灰・粒状ミネラルGなど)を施している圃場は避けるようにしましょう。

これらを施用している圃場では芋の表面がざらざらになる「そうか病」が発生しやすくなります。「土壌診断」を定期的に実施して畑の状態をチェックした上で土壌改良資材などの選定をお勧めします。

◆圃場の準備の一例

①植え付け14日前頃から準備します。

完熟たい肥(牛糞由来)2kg／㎡・粒状ようりん20～30kg／㎡・苦土石灰50g／㎡

②植え付け7日前頃

野菜有機189を100～120g／㎡施肥、耕うんし畝を立てます。

◆植え付け

種イモは切り口を下に向け、種芋同士の間隔は25㎝程度にして置き、7～8㎝程度覆土をして軽く鎮圧しましょう。

◆芽かき

勢いの良いものを2～3本残し、その他は芽かきをしましょう。芽かきの際には種イモを掘り上げないよう株元を押さえ、斜めに引き抜くようにすると上手くできます。

◆追肥・土寄せ

草丈が15～20㎝程度に伸長した頃から追肥・土寄せを行います。畝に沿って肥料を施し、通路の土をほぐすように混ぜながら5㎝程度を目安に株元に土寄せを行ないます。

施肥量は、25～30g／㎡

◆病害虫

・害虫…アブラムシ、テントウムシダマシ類

・病害…疫病、青枯病、そうか病

これらに注意しましょう。

◆多収のポイント

馬鈴しょは、pHを上げる石灰質資材を嫌う野菜で、これらを施すと「そうか病」発生を助長することになります。しかし、馬鈴しょの収量を上げるためには石灰の施用効果が高いと言われています。

相反することのようですが、石灰資材にもpHを上げるものと「pHを上げない」ものがありこれらをうまく組み合わせることで土壌改良効果と収量向上を両立することができます。

代表的な馬鈴しょ増収を目指した石灰質資材「畑のカルシウム」は、土壌pHを上げることなく馬鈴しょに必要な石灰分を供給できる資材です。是非一度試してみてください。

【畑のカルシウム】

①基肥＝20g／㎡

②追肥＝10g／㎡

※詳しい栽培管理については、お近くのアグリセンター営農指導員にご相談ください。

Information お知らせ

広島中央地域 営農情報 LINE@友だち募集中！

お得な情報がいっぱいあるよ

©ここまる

お友だちには…

①米や野菜作りなどの営農情報をいち早くお届け！
（病害虫、防除の情報などなど）
②災害時などの情報もいち早くお届け！！
③抽選プレゼントやイベント情報も！

友だち登録方法

①右のQRコードで読み取って登録
②ID検索から
下のIDを入力して登録

LINE ID
@380qsxur

アグリセンター 棚卸による休業のお知らせ

棚卸に伴い、誠に勝手ながら3月31日（火）はアグリセンターを休業させていただきます。
ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

広島中央農機センター 農繁期の休日対応について

広島中央農機センターでは、春の農繁期に次の期間、土・日・祝日の休日営業を実施します。どうぞご利用ください。

【実施開始】4月18日（土）～5月31日（日）

休日営農 相談ダイヤルのお知らせ

休日でも営農に関する相談をお受けする営農相談ダイヤルを実施します。営農指導員が電話で直接アドバイスします。水稲や野菜に関するご質問やご相談など、お気軽にお問い合わせください。

【実施開始】4月18日（土）～
【受付時間】午前8時30分～午後5時
【電話番号】082-423-5913

アグリセンター 4月の休日営業のお知らせ

広島中央地域のアグリセンターは、春の農繁期に次の期間、休日営業を実施します。どうぞご利用ください。

【実施開始】4月18日（土）～5月31日（日）
【営業時間】午前8時30分～午後5時

※5月以降の日程は、来月号でお知らせします。

東広島市園芸センターより 講座受講生の募集について

東広島市園芸センターでは、野菜生産講座と園芸日曜講座の受講生を募集しています。

野菜生産講座

【内　容】
学校給食への出荷に向けた野菜栽培、土壌肥料などの講義、実習
【対　象】
・市内在住で学校給食や市内直売所などの出荷農家として会員登録している
・学校給食に向けた野菜栽培に取り組む意欲がある

園芸日曜講座

【内　容】
野菜や果樹栽培などについて、圃場での基礎的な講習
【対　象】
・農業未経験
・将来的に本市内の農地で園芸作物の栽培を考えている

共通事項

【開講期間】令和8年4月～令和9年3月（月1回程度、全12回）
【場所】東広島市園芸センター　【定員】20人（先着順）
【受付期間】3月2日（月）～3月27日（金）

お問い合せ
東広島市園芸センター
TEL（082）433-4411